



山あたり日

令和5年度学校だより9月号
令和5年9月1日
東久留米市立南町小学校
校長 永瀬 功二
TEL 042 (461) 2662

学校ホームページ <http://www.higashikurume-school01.jp/~minami-e/>

南町小の子供たちの思いが、こんなところにも受け継がれています

校長 永瀬 功二

今年は記録的な猛暑の夏でしたが、4年ぶりに多くの社会活動が制限なく行われ、子供たちもそれぞれ充実した42日間を過ごしたことと思います。2学期の始業式を迎え、学校に元気な子供たちの声が戻ってきました。

一方、新聞やテレビ等では、今日9月1日が近づくにつれて「関東大震災からちょうど100年」という話題が多く報道されていました。1923年

(大正12年)9月1日の11時58分に、東京都や神奈川県を中心に大地震が起こり、10万人以上の方が亡くなりました。今から100年前のことなので、実際に経験された方はごく僅かになりましたが、今でもこの日は「防災の日」として、各所で防災訓練などが行われています。

この節目の今日、学校では改めて東京でも100年前にこんなに大きな地震があったのだという話をしました。ご家庭でもぜひ、「もしもの時の備え」についてお話しいただければ幸いです。

また、この夏休みには、東久留米市より本校に関わるこのような話題の紹介がありました。



「軽ワゴン車の第二の人生に拍手」

美しい湧水が数多くある東久留米市。平成22年12月には「湧水保全フォーラム全国大会 in ひがしくるめ」が開催されました。その際、南町小学校の4年生が環境について調べたことを発表しましたが、そのフォーラムには岩手県から大槌町の皆さんも参加していました。

ところがその3か月後の平成23年3月11日に東日本大震災が起こり、大きな津波が同町を襲いました。そこで同フォーラムで交流のあった東久留米市の市民団体「東久留米川クラブ」が南町小学校の子供たちに呼びかけ、子供たちの応援メッセージを車体に寄せ書きした軽ワゴン車を大槌町に贈りました。

その日から12年が経ち、車の老朽化から一度は廃車が検討されましたが、地元企業の協力により整備と保存が決まり、震災の記憶を伝える証として展示する新たな役割が決まりました。

当時の子供たちはもう成人していますが、この話を知ったら喜んでくれることでしょう。軽ワゴン車の第二の人生に拍手を送るとともに、東日本大震災の経験者である私達自身も記憶を風化させないで伝えていくことが使命だと感じました。

学校ではこの2学期も**運動会**、**南町発表会**という大きな行事が予定されています。引き続き「一人一人を大切に」を合言葉に、子供たちが力いっぱい取り組み、達成感を感じられる2学期になるよう、全教職員で取り組んでまいります。



車に寄せ書きする当時の小学生たち